

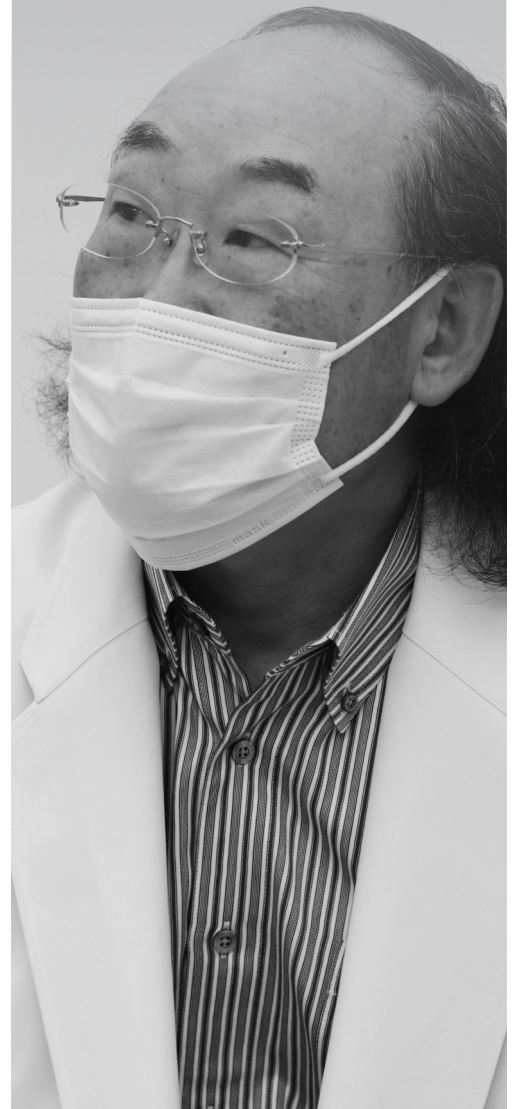
医療関係者はどう見る

interview

笹浪 哲雄 医師

1

ささなみ内科クリニック院長
内科認定医 / 肝臓専門医 / 消化器病専門医 / 江別医師会会長 / 江別市立病院
経営評価委員



地域の医療を支え続けるほしい

地域の医療を支えている

当院は、平成6年に開業してから、江別市立病院に大変お世話になっていきます。

市内において小児科と産婦人科の病院が少ないなか、市立病院の小児科は、とても充実していると感じています。

当院が当番医の時は、何かあれば応援をお願いするなど、市内の小児医療を支える

重要な役割を担っていただいています。

産婦人科は、市内で唯一の分娩施設があり、産後の体調管理にも関わっていると聞いています。

他の診療科においても、当院ではできない手術や入院治療、気になった症状の検査などのため、患者さんを紹介しています。

また、市立病院がなければ、

市外の病院など、遠方の病院を紹介することになり、患者さんの負担が大きくなるのではないのでしょうか。

患者さんの立場からすれば、市外ではなく、身近に信頼できる医師がいたほうが、安心です。

また、医師会会長としては、救急搬送などにより市外で治療を受け、長期療養が必要となった患者さんが市内に戻ってくる時の受け皿になっていたただくことを期待しています。

経営再建に向けて

市立病院では、経営再建に向け職員さんのアイデアで、

もの忘れ外来を新設したり、在宅医療の強化に取り組んでいると聞いています。

今後、高齢化が進んでいくと通院することが困難な高齢者が増えてきますので、こうした需要はますます高くなるでしょう。

こうした取り組みを効果的に機能させるためには、内科医の存在が大きいのですが、現在、市立病院は内科医不足が深刻です。

全国的に医師不足と言われているので、簡単なことではありませんが、医師確保がさらに進むことを望んでいます。

また、厳しいことを申し上げますが、経営再建に向けた

ロードマップの取り組みにあった精神科病床の無床化については、医師会として明確に反対しています。

経営の効率化のみではなく、市立病院の果たすべき大事な役割にも目を向けてもらいたいものです。

市内の民間医療機関の医師は比較的高齢です。将来的には後継者不足で閉院する病院が多くなってくるかもしれません。

そうなった時でも、市民の健康を守るよう民間医療機関と市立病院が連携して市内の医療を支えていくことで、それぞれの役割を果たしていきたいですね。

市民は どう見る

interview

鈴木 笑子 さん

2

市内在住歴3年。がん看護専門看護師としてがん相談をしている。医療の地域連携に興味を持ち、江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会では市民委員として参加した。



市立病院は 身近で、安心できる存在

近くにあることの、安心感

市立病院は市内の基幹病院の一つとして、現在、最も入院病床数が多く、何かあっても市立病院があるという安心感がありますね。

また、市立病院には産婦人科があり、市内で唯一、出産できる病院です。

私の体験談なのですが、主人の仕事の都合で地方に住ん

でいたときは、出産のために1時間半かけて病院に向かったり、子どもの急な発熱があつたときも近場に小児科がなく、週2回の小児科巡回診療だけが頼みの綱でした。

近場で出産ができ、子どもの急な体調不良も対応してくれる病院があるということ

は、女性にとって非常に安心できる要素だと思います。

また、江別はがんの死亡率

が道や全国と比べ、高い傾向にあります。市立病院には、がんの認定看護師が在籍していますので、がんの治療や出前講座にも期待しています。

札幌で手術や放射線治療を受けたあと、住み慣れた江別で治療を続けられるようになると、その人らしい時間を過ごせるようにもなりますし、地域の訪問看護やクリニックと連携されると、ご自宅での看取りまで実現できるようになるのではないかと期待しています。

また、小中高校生にがん教育について出前講座を行っていただけると、親御さんも関心を持つきっかけになり、がん検診受診の意識改革に繋が

るのではないかと期待しています。

身近な存在としての市立病院

市立病院は経営状況や医師の減少が目立っていますが、院長先生や医療従事者の皆さんが一丸となって改革を進めています。

市立病院には、老年看護専門看護師や認知症看護認定看護師が在籍していますし、もの忘れ外来や健診センターの新設といったケアも充実してきています。

また、治療外のことでは、ロビーコンサートやお見舞いメールといった、心がほっとするような取り組みも

実施されています。

現在、新型コロナウイルス感染症防止のため、入院されている方への面会が制限されていますが、ホームページにあるお見舞メールという機能を使うと、看護師さんが入院している方へお見舞いの言葉を届けてくれるそうです。

ビデオ通話などが出来たら一番だとは思いますが、入院されている方全員が通信機器に得ての方ばかりとは限らないので、このような取り組みはとても素敵だと思います。

私も市民の一人として、このような小さな取り組みの一つ一つを嬉しく思いますし、これからも応援していきたいと感じます。



市立病院産婦人科 中郷 賢二郎 医師

医療体制、どう変わるべきか

「市

民の皆さんに、自分事として市立病院の

あり方を考えていただくことで、将来像を一緒に描いていけるのではないかと思っています」と話す、江別市立病院の富山光広院長。

市立病院の役割

市立病院の役割は、民間病院が担えない診療を引き受け、市民の皆さんに必要な医療を安定的に提供することだと考えています。

経営上の利益だけを考えれ



市立病院院長 富山 光広 医師

日本外科学会専門医・指導医 / 日本消化器外科学会
専門医・指導医 / 消化器がん外科治療認定医

ば収益性の高い診療科に特化したほうがいいのかもしれない。

確かにそのようにすると、利益が多くなる可能性はあると思います。

しかし、市民の皆さんに必要なとされる医療を安定的に提供するためには、利益が見込まれなくても、民間の病院が担えない診療は、市立病院に残さなければならないと考えています。

また、介護などに従事している方にとっては、困ったら市立病院に頼めば何とかしてくれる、だから現場の人が頑張れるといった、最後のとりでとしての安心感を与える役割もあると思います。

医師不足の現在

しかしながら、このような役割を果たしていかねなければいけない一方で、平成18年に内科医師の一斉退職、平成28年度以降には、総合内科医の退職が続き、医師不足が発生しました。

このような状況に対応すべく、現在は、医師招聘^{しよへん}に向け、医育大学との関係を再構築することに努め市民の皆さんが必要とする医療の提供ができるよう体制整備を行っています。現状では、内科以外の診療科については、おおむね必要な医師数を確保できていると考えています。

必要な医療の範囲

では、江別市の皆さんには、どのような医療体制が必要なのでしょう。

それは、市立病院を含めた市や市民の皆さんが、自分たちにとって必要な医療についてどのように考えるかだと思います。

札幌市と同様に、ほぼ全ての疾患に対する医療が提供され、完結できるようにするた

めには、相当な範囲の医療体制の整備が必要になります。

江別市の人口規模でそのような体制を整備しても、経営が成り立つような患者数を確保することはできないので、札幌市全体で提供している医療を江別市内で保有することは困難です。

どの程度の疾患を市内でまかない、どの程度の疾患の治療を札幌に求めるのが重要なポイントになります。

一方、市民の皆さんにもさまざまな意見があります。特に、市立病院に近い江別、野幌地区と、札幌に近い大麻地区では、市立病院についての意見が大きく異なる傾向があります。

また、風邪などもすぐに市立病院で診てほしいという声も強いのですが、厚生労働省では江別市立病院のような規模の病院は、入院が必要となりそうな急性期の治療に特化し、外来は民間の個人病院などに任せろべきだというような方針が示されています。これらのさまざまな意見で必要な医療の範囲が定まり、市民の皆さんに納得していただける市立病院になっていくのではないかと思います。

「自分事」として市立病院のあり方を考える

特に年齢が若い方は、市外まで行けば多くの病院があるため、病院の選択はたくさんあると感じているかもしれません。

しかし、10年、20年と年齢を重ねていくと、体力が落ち、市外まで通院することが簡単ではなくなってきました。

体が動かない、車の免許を返納したなどの理由から、近所の病院にしか通えない方も

現実には、いらいやいます。

市外に通院するとなると、体力的にもそうですが、交通費の負担も大きくなります。

このように、市立病院があれば、民間の病院が担えない医療を市内で受けることができるため、その分、個人の負担が減ります。

そうすると、ある程度の治療が受けられる「生活必需品」としての医療が「身近にある」ということが、極めて重要になってきます。

高齢者の方は、今まさに実感していると思いますが、そ



市立病院の感染症対策

1. 健診センターの新設

健診受診者と一般患者の動線を分けるため、12月1日からオープン。

2. 診療費支払機の導入

会計窓口における対面での接触機会が減ります。お帰りの際は、出口の手指消毒剤で消毒していただくことで、感染症対策を徹底しています。

3. 正面玄関での検温

入館場所を正面玄関に限定し、発熱や風邪の諸症状があった方は、専用の診察室にご案内し、一般診療と動線を分けて対応しています。

のことを若い方にも感じてもらいたいと思います。

市民の皆さんに、将来の江別市の医療はどうあるべきなのか、想いを巡らせてほしいです。そして、多くの方に「自分事」として市立病院のあり方を考え、意見を述べていただきたいです。

そうすることで、江別市にとって本当に必要な医療体制を整備した市立病院の将来像を、皆さんと一緒に描いていけるのではないかと思います。